

和歌山県の地震

第 2 7 卷 9 号
令和元年 9 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

地震メモ No. 310

南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 10 月 7 日)	・・・・・・・・ 5
-------------------------------	------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000(行政界・海岸線)を使用しています。

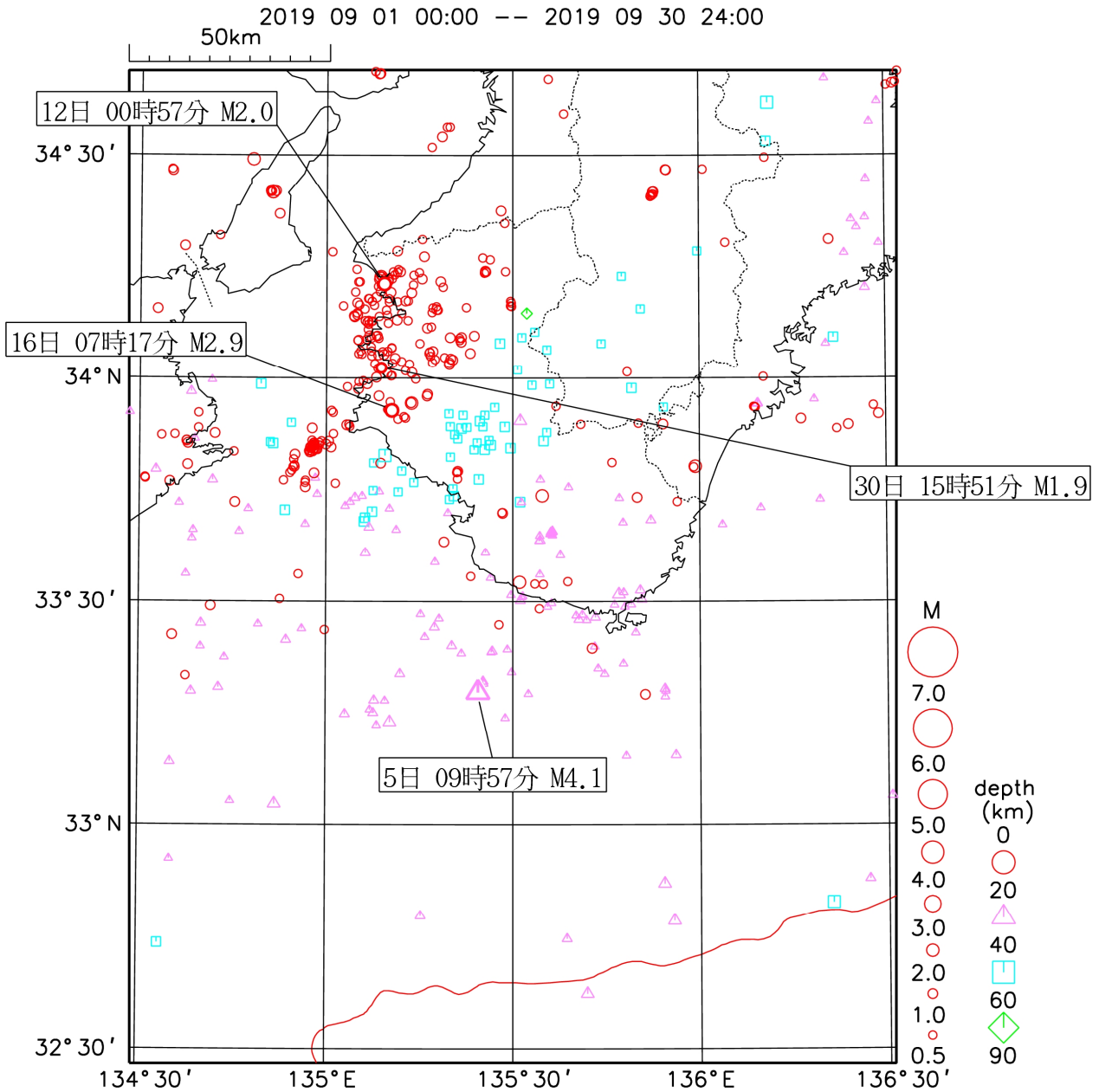
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2019年9月

和歌山地方気象台

震央分布図

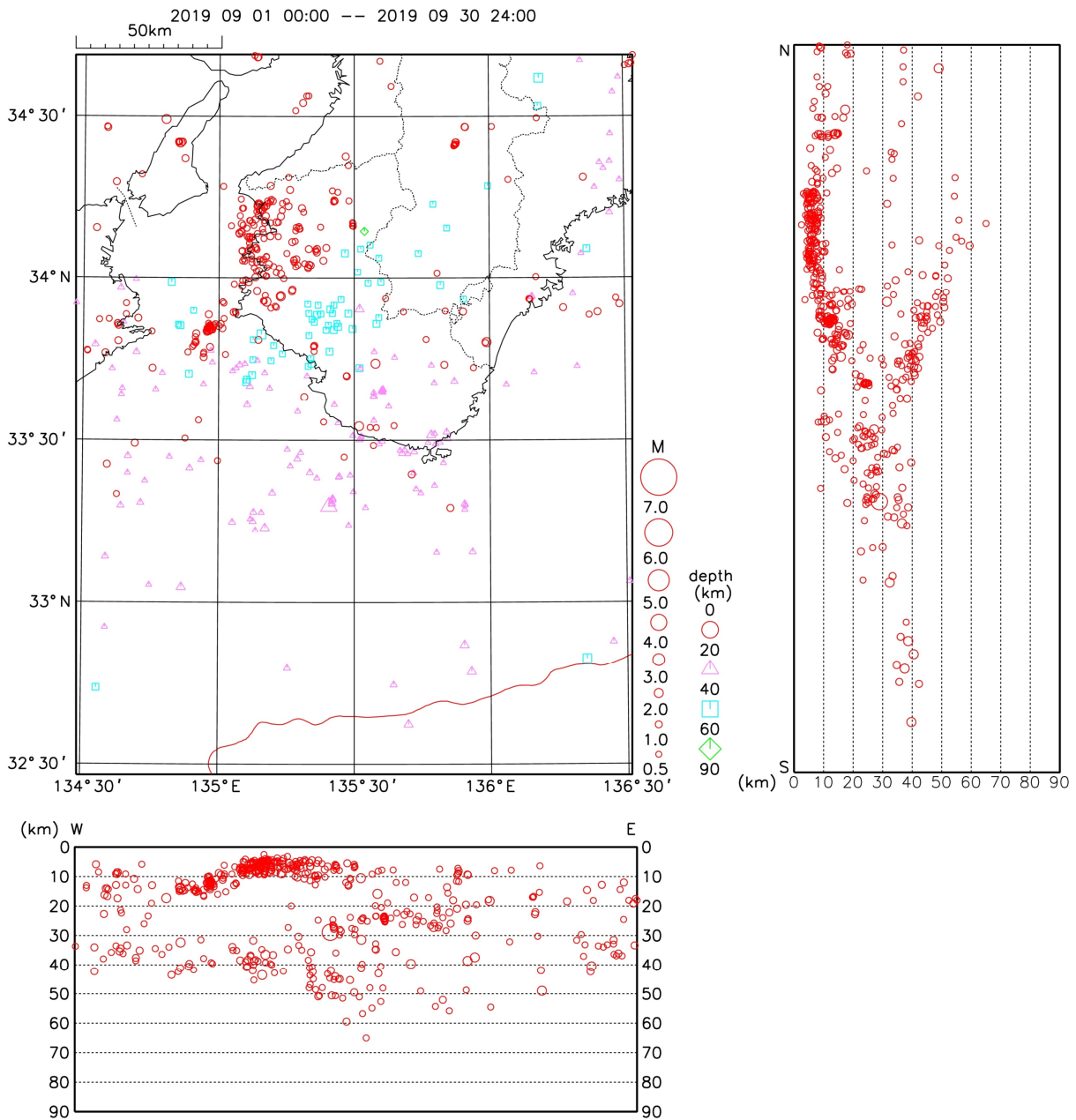


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

9月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は21回(前月は31回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、5日9時57分和歌山県南方沖の地震(M4.1、深さ29km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した地震でした。

9月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、上記の地震を含め4回(前月3回)でした。

和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2019年09月05日09時57分	和歌山県南方沖	33° 17.8' N	135° 24.4' E	29km	M4.1
和歌山県 震度 2：紀美野町下佐々*、田辺市中辺路町栗栖川*、田辺市中屋敷町*、白浜町日置* 上富田町朝来*、すさみ町周参見*					
震度 1：和歌山市男野芝丁、和歌山市一番丁*、海南市下津*、御坊市菌、高野町高野山中学校 湯浅町青木*、和歌山広川町広*、由良町里*、みなべ町土井、みなべ町芝* 日高川町土生*、日高川町高津尾*、紀の川市貴志川町神戸*、紀の川市桃山町元* 有田川町清水*、田辺市中辺路町近露、田辺市鮎川*、田辺市龍神村西* 新宮市熊野川町日足*、白浜町消防本部、串本町潮岬、古座川町高池					
2019年09月12日00時57分	和歌山県北部	34° 12.6' N	135° 09.3' E	5km	M2.0
和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*					
2019年09月16日07時17分	和歌山県北部	33° 55.6' N	135° 10.5' E	8km	M2.9
和歌山県 震度 1：御坊市菌、湯浅町青木*、由良町里*					
2019年09月30日15時51分	紀伊水道	34° 01.3' N	135° 08.8' E	6km	M1.9
和歌山県 震度 1：湯浅町青木*					

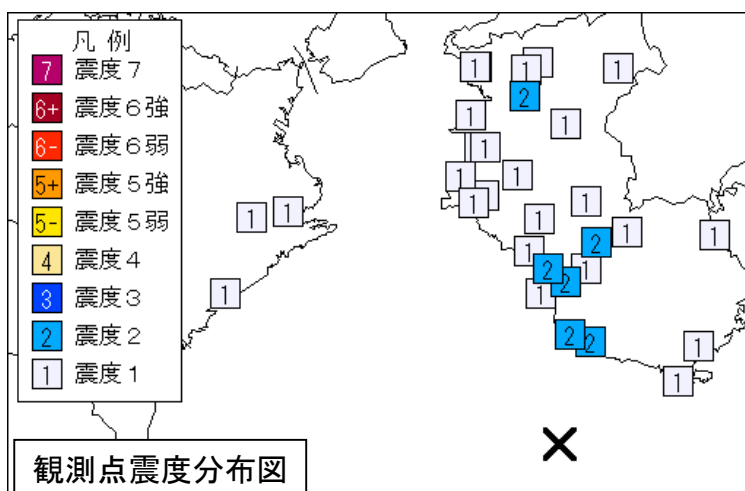
地点名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

11月5日に緊急地震速報の訓練を行います

気象庁は国の機関や地方公共団体（全国瞬時警報システム経由）、民間の緊急地震速報を提供する配信事業者のうち、訓練への参加を計画している機関や団体に対して、訓練用の緊急地震速報を配信します。シェイクアウト訓練等を実施し、緊急地震速報を見聞きしたときに、慌てずに身を守る行動ができるようにしましょう。

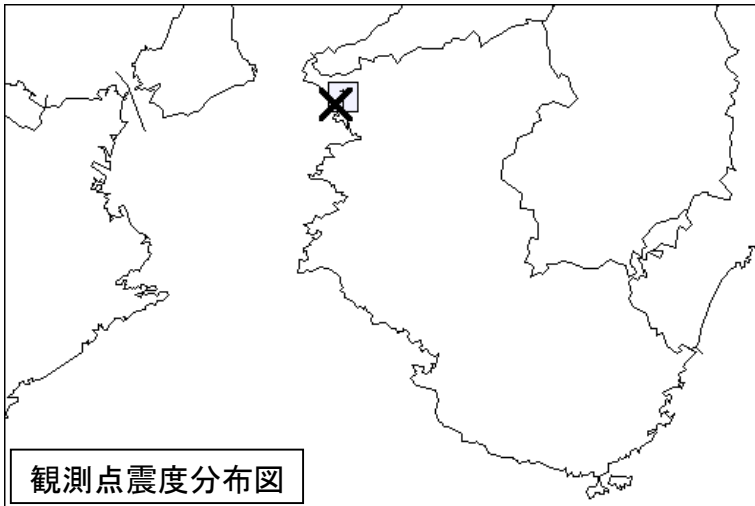
震度分布図（図中の×は震央）

2019年09月05日09時57分 和歌山県南方沖の地震（M4.1、深さ29km）

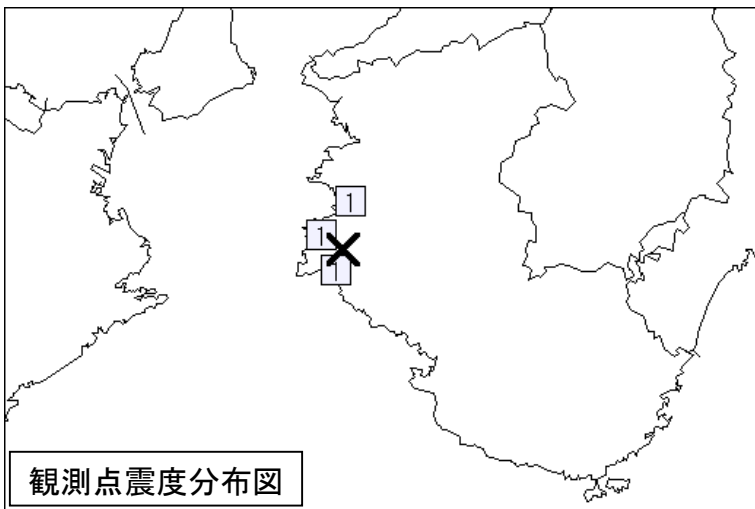


震度分布図（図中の×は震央）

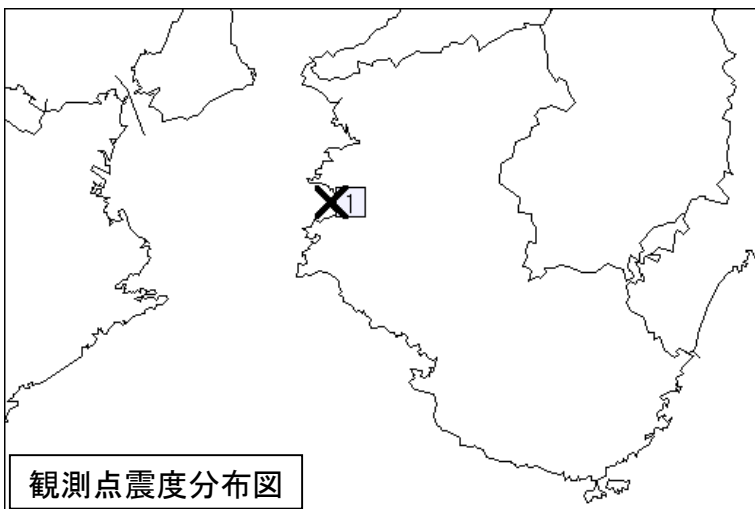
2019年09月12日00時57分 和歌山県北部の地震(M2.0、深さ5km)



2019年09月16日07時17分 和歌山県北部の地震(M2.9、深さ8km)



2019年09月30日15時51分 紀伊水道の地震(M1.9、深さ6km)



南海トラフ地震関連解説情報 (令和元年 10月7日)

南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

(1) 紀伊半島西部：9月5日から9月8日

(2) 四国東部：9月12日から9月20日

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2018年春頃からの九州北部の地殻変動及び2018年秋頃からの四国西部の地殻変動は、日向灘北部及び豊後水道周辺のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、2019年6月頃から停滞しているように見えます。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

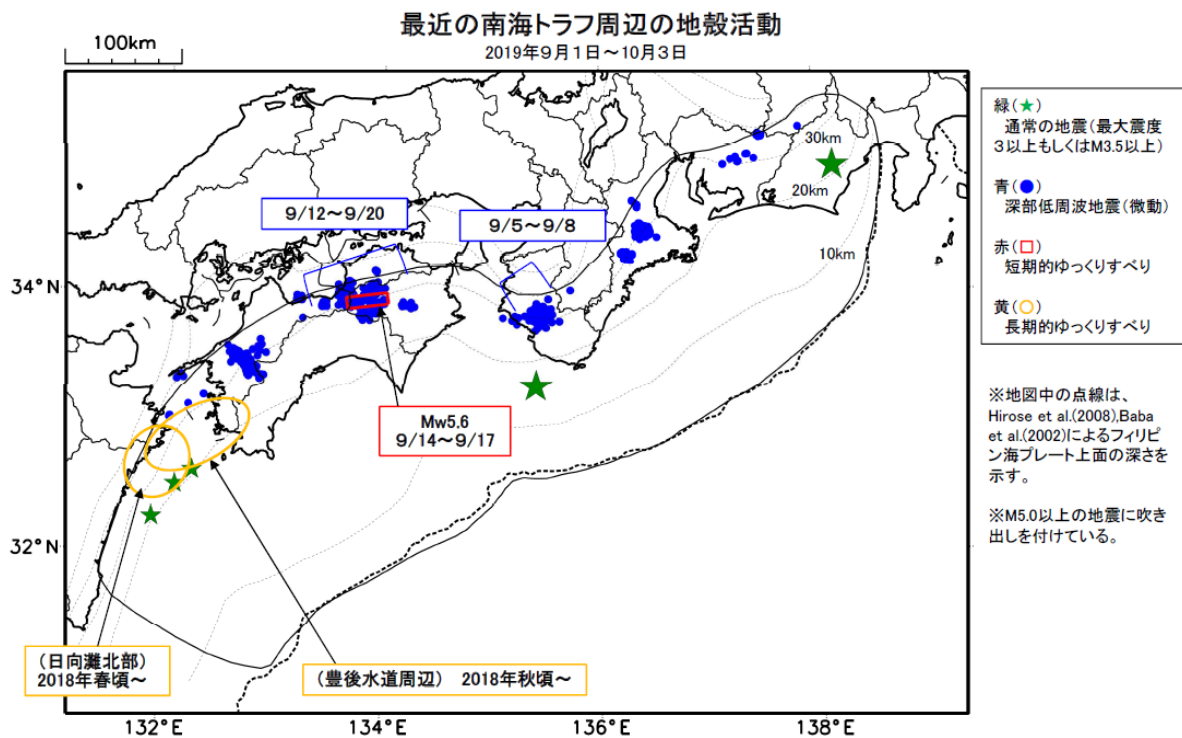


図 南海トラフ周辺の地殻活動をとまとめた図

この資料は、「南海トラフ地震関連情報」の普及を目的に、発表された『南海トラフ地震関連解説情報』の内容を抜粋、編集加工した概略を掲載しています。各観測状況の評価等、より詳細な事項等は以下URLの資料をご覧ください。

- ・ 南海トラフ地震関連解説情報 <https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>
- ・ 報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> ※新着情報をご覧ください